

「なすかしの森 9 DAYS キャンプ 2019」報告

メインキャンプ 令和元年8月4日(日)～12日(月) 8泊9日

【目的・趣旨／概要】

小中学生がボランティアスタッフと9日間にわたって様々な自然体験活動に取り組みながら、課題解決していくことを通して、達成感や協働する喜びを感じ、助け合いや課題解決に取り組める力を身につけることをねらいとする。なお、実施に当たっては、地域の教育資源を生かし、地域の教育力の向上にも努める。



【連携先】

- ・研修指導員 高田 雅雄 氏
- ・NPO法人那須高原自然学校
- ・真山 高士 氏 ・四谷 多弥 氏 ・加瀬 佑一朗 氏 ・牧口 未和 氏

【募集対象／実績】

《募集対象》小学5・6年生 中学1・2年生 20名程度募集

《実績》小学5年生13名 6年生8名 中学1年生3名 中学2年生1名(計25名)
ボランティア 6名 連携先スタッフ 5名

【プログラム概要】

第Ⅰステージ 8月4日～7日13時

『生活設計』 **D**esign

初日は、出逢いのつどいの後、25名が仲間になるためのゲームや、「なすかしの森冒険ラリー」と称したグループ対抗の活動を行った。また、シンボルとなる横断幕の作成も行い、9日間の生活・冒険のために、気持ちを高めることができた。

2日目からは、生活の拠点をテントサイトに移した。テントやタープ設営のためのスキルとしてロープワークを学びながら、自分たちの居住区を作った。さらに、習得した技を使い、自分たちで考えながら快適な生活環境を整えていった。

また、野外炊事を行うために、薪での火起しや、ガスバーナーの使い方も学んだ。薪での火起しに苦戦するグループが多かったが、失敗しながらも、自分たちの手でやり遂げることで、次の機会には比較的容易に火起しができていた。生活に必要な水も、本館から汲んで来る必要があり、大切に使おうという意識のもと、生活していた。

最後の24時間は自分たちで食事・入浴を含めた活動を計画し、実行に移した。テントサイトで水遊びをしたり、洋服を洗濯し物干しを作ったり、おそろいのミサンガを作る班もあった。当施設の活動プログラムである「沢歩きハイキング」を行う班もあり、思い思いの活動を楽しんでいた。また、この日の入浴は、ドラム缶で行い、自分たちでお湯を沸かして入るという貴重な体験もした。

第Ⅱステージ 8月7日13時～10日15時

『冒険』 **A**dventure

このステージは、長距離ウォークと茶臼岳登山である。通常バスを使い1時間ほどで登山口まで行くのだが、徒歩で1日かけて麓まで行った。舗装された道路ではあるが、アップダウンもあり、声を掛け合いながら約13.5kmの道のりを歩ききった。麓の「一望閣」というリニューアル工事直前のホテルの駐車場にテントを張らせていただく予定だったが、雨が降り出し、雷の予報もあつ

たので、急遽ロビーにテントを張らせていただくことになった。第Ⅰステージで習得したロープワークなどが活かされ、電気も水道もない中でも2晩を過ごすことができた。

実際の登山は、班ごとにまとまって山頂を目指した。いくつかの集合ポイントは設けたが、休憩のタイミングなども班ごとに相談しながら適宜とることができた。班の中でも体力差が少なからずあり、折り合いをつけるのが難しい班もあったが、話し合いを重ね、励まし合いながら歩き続け、班のまとまりを感じる登山となった。

第Ⅲステージ 8月10日15時～12日

『『振り返り』 Your Success』

茶臼岳・一望閣からテントサイトにもどり、まとめの活動を行った。登山用具の片付けを行い、キャンプの思い出の作文を書いたり、最終日の保護者に向けたプレゼンテーションの準備を行った。その後、夕飯をかねた、フェアウェルパーティーを行うため、班ごとにメニューを分けて野外炊事を行い、最後の夜を盛り上げるキャンプファイヤーを行った。

フェアウェルパーティーでは、各班が作った料理を分け合い、楽しい食事となった。キャンプファイヤーでは、各班の出し物も工夫されており、最後は雨の中になってしまったが、みんなの歌声が響き合うすてきな時間となった。

最終日は、久しぶりの家族との再会を果たし、9日間の出来事や、感じたこと、自分が班のためにしたことなどを報告した。準備時間が短かったが、班ごとに工夫を凝らしわかりやすい発表となり、保護者にも講評であった。



【成果】

- ・ 営火場Dをテントサイトとして活用したことで、活動場所として新しい使い方を試行することができた。
- ・ テント設営や、野外炊事に直結するスキルとして、ロープワークや火起しを行ったので、キャンプ中の生活の中で、各自が考え活かすことができた。
- ・ 毎日の振り返りの中で、自分だけでなく、友達の言動にも目を向けたことでより仲間を意識して生活することができた。また、横断幕にもよかった言動を書き込んでいたことも効果的であった。
- ・ 24時間の計画行動では、各班で話し合いながら工夫のある充実した時間を過ごすことができた。
- ・ 登山では、声を掛け合いながら全員無事に登頂することができ、一望閣の往復も、重いザックを背負いながらも、無事にテントサイトに帰還することができた。
- ・ 最終日の発表会に向けた準備では、各班工夫を凝らし、自分自身や仲間との活動を振り返ることができた。また、実際の発表では、保護者が見守る中、各班の創意工夫のある発表が行われた。

《参加者の声》

「普段できないことがたくさんできてよかった」「これが自然だと言うことが分かった」「チームワークが大切だと思った」「自分たちで考えて進めることができて楽しかった」等

【課題と方策】

- ・ キャンプ未経験の参加者がほとんどであり、キャンプサイト設営と初めての野外炊事に時間がかかってしまった。テント生活を始めるまでの日程にもっとゆとりが必要であった。
- ・ 登山では、グループ登山の形式をとったため、先頭と最後尾の班で最大30分の差があった。すべての班にスタッフはついており、スケジュールにもゆとりがあったが、スタッフ間の共通認識を明確にすべきであった。